



Walk with Children

めぐろ



せいび

178号
2022年4月

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。

(Iテサロニケ 5章16~18節)

校長 シスター 小島 理 恵

新年度が始まりました。子ども達はそれぞれ一つ上の学年になり、新しいクラス、新しい学校生活への期待に胸を膨らませていることでしょう。新型コロナウイルス感染症の収束にはまだまだ時間がかかりそうですが、学校は「新しい日常」を継続しながらも、できる限りコロナ以前の学校生活に戻せるよう計画しています。

明日の入学式で104名の新1年生を迎え、634名の子ども達と教職員とで令和4年度をスタートします。“喜びのある学校”での毎日が神様のお恵みで満たされますようお祈りいたします。

今年度も、保護者の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い致します。

コンネッショナー
Conessione

～つながり～

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。そこで、ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

私たちの学校の創立者聖ヨハネ・ボスコについて紹介します。聖ヨハネ・ボスコはいつたいどのような人だったのでしょうか。

聖ヨハネ・ボスコは、1815年8月16日、北イタリアのトリノから30kmほど離れたベッキ村で生まれました。「ドン」はイタリア語で「神父」を意味し、親しみをこめて「ドン・ボスコ」と呼ばれています。劣悪な状態で体と心の糧を欠いている少年たちの哀れな姿に心を痛めたドン・ボスコは、1841年12月8日、トリノで「オラトリオ」という少年たちの居場所を作りました。そこから、ドン・ボスコの人柄や魅力にひかれて、わずか1年で数百名の生徒がこの「オラトリオ」に集まるようになりました。そして有志の人々の協力を得て、寮、職業学校、普通科学校などが併設されていきました。

こうして今もドン・ボスコの「子ども達と共にいる」という精神を受け継いで、本校もこの目黒の地に創立されました。

(カトリックサレジオ修道会 Japan HP 参照)



聖ヨハネ・ボスコ

新年度が始まりました

令和4年度が始まりました。本日始業式を迎え、進級の喜びに満ちた姿を見せてくれた子ども達。そして、明日1年生が目黒星美学園小学校の仲間となります。

今年度も子ども達の健康と安全に気を付けながら、周りの人たちへの感謝と喜びを持って過ごしていきたいと思います。

4月は新しい先生や友達と出会い、たくさんの喜びが待っています。

学校行事も少しずつ実施することができ、日々の生活に活力と潤いがあふれることと思います。

校報「せいび」では、学校の行事の意義や笑顔あふれる子ども達の生き生きとした姿などを伝えていきます。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



今年度新しく入った教職員

今年度奉職した教職員です。新たな仲間と共に、愛情を持って子ども達に接していきます。全校保護者会にて、改めてご挨拶させていただきます。



(担任)

子どもたち一人ひとりと、楽しく学び、楽しく遊ぶ、実りある学校生活を過ごすことを目指して頑張ります！



(英語科)

4月から英語を担当します。子ども達と一緒に楽しく学んでいきたいと思います。

Let's enjoy English!



(英語科)

Hello! I will be working as a Native English teacher from this year.

Thank you for having me!



(1~4年特別宗教)

23年ぶりに目黒星美に戻ることができて嬉しく思っています。家族的な雰囲気の中で、ドン・ボスコの精神を子ども達と共に、分かち合っていきたいと思います。



(事務職員)

去年の7月より星美学園法人事務局から異動してきました。小学生の元気な姿に負けないように頑張りたいと思います。



(事務職員)

何かと至らないことも多くあると思いますが、皆さんのサポート役として、尽力して参ります。

巣立っていった6年生 ～答辞より

令和4年3月16日(水)第63期卒業生114名が本校を巣立っていきました。朝の曇り空から一転して晴れ間が広がり、子ども達の卒業をお祝いしてくれているようでした。新たな一步を踏み出す子ども達がそれぞれ明るい未来に向かって羽ばたいてくれることを願っています。



当日読まれた卒業生代表児童の卒業のことばを紹介します。

本日は、このような新型コロナウイルスの状況下ではありますが卒業式を挙げていただき、僕たち卒業生一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

僕たちをやさしく見守ってくださった神様、時にやさしく、時に厳しく、ご指導くださった先生方、共に学び、多くの時間を共有した友達、そしてこの小学校の通わせてくださったお父さんお母さんに感謝を表したいと思います。今日まで本当にありがとうございました。

春の風が爽やかなこの校舎に立ち、卒業という事実に向き合う僕たち一人ひとりの胸の中には、様々な想いがこみ上げています。

入学後まもなく、僕たちはペアの6年生と顔を合わせました。僕はこのペアの6年生に多くのことを教えてもらい、貴重な学びがありました。特にペアの6年生が僕以外の1年生のお世話もしていたことから、どんな人にも優しくすることの大切さを学んだことは鮮明に覚えています。今思えば、この学びは当たり前になって忘れてしまっていたことを改めて感じさせてくれるとても大切なものでした。

5年生になり、僕は児童会役員になりました。児童会の主な活動は児童会総会や行事の企画を行うことですが、班同士でうまく協力することができず、また新型コロナウイルスの影響も相まって活動が進まず悩んだこともありました。しかし、仲間と多くの話し合いを行いながらたくさんの活動をやりとげることができました。この経験から僕が得たものは、人にはそれぞれに色々なものの見方や考え方があり、新しい自分の考え方をみつける手がかりにもなるということでした。

友達関係でも多くを学ぶことができました。6年生になると僕は友達と衝突することが多くなりました。しかし僕はあまり相手に強く言い返せない性格なため相手に思いを伝えられないこともありました。またそれを誰かに相談することもできず、学校への足どりが重くなった時期もありました。ですが、その後僕はその友達とも仲直りをするのができ、今ではとても親しい友達の一人となっています。

この経験から、色々な人とコミュニケーションをとれる人は、冷静に、自分の言動を振り返ることができ、かつ相手の立場や視点に立って物事を考えることができること、また自分と相手の立場や意見を尊重しながら人と仲良くできるという2点の気づきを得ることができました。

僕たちは今後も多くの壁にぶつかることと思いますが、決して逃げ出さず、見方を変えて壁を乗り越えていきたいと思います。その積み重ねが、僕たちの人生を作るのでしょし、そうやって未来は創造されていくものだと思います。僕たちは今日、この目黒星美学園小学校を卒業します。中学校に進学する僕たちがこれからの人生の節目においてその都度、ここで学んだことの意義をかみしめ、それぞれの道で活かし、一人ひとりが神様から託された使命を精一杯果たしていきたいと思います。僕たちを支えてくださったシスター方、先生、職員の皆様、そしてお父さんお母さん、6年間本当にありがとうございました。

令和4年3月16日 卒業生代表



ご復活のお祝い

「復活祭」はキリスト教で最も重要な祭日であり、イエス様をご復活されたことをお祝いする大きな喜びの日で、イースターとも呼ばれています。「イースター」という言葉の由来は、アングロ・サクソン民族の厳しい冬が終わり、あたたかな光の中、いのちが芽生える春を祝う「春の祭り」です。今年は4月17日の日曜日をご復活のお祝い日となっています。

イエス様は私たちを愛し、全ての人にかわって苦しみを受け、十字架にかけられ、お亡くなりになりました。それによって、私たち人間も神様からゆるしを受けるお恵みをいただいています。また、イエス様は、「人」としてこのような苦しみを受けてくださったことで、私たちが苦しい時にそれを理解し、助けの手を差し伸べてくださいます。

ご自分の命をお与えになるほど私たちが愛してくださるイエス様に感謝しつつ、学校では4月18日（月）の朝礼時に、全校で祈りの時を持ちます。

